

平成 20 年 6 月 30 日

海事産業の次世代人材育成推進会議・平成 20 年度行動計画

- 1 海事産業のブランド化を目指した戦略的な広報の展開
 - (1) 海事産業、特に、そこで働く人の魅力を最大限に引き出す夢とロマンを与えられるような広報を展開し、海事産業のブランド化を目指す。
 - (2) マスメディアへの効果的な露出を図る。
 - (3) ターゲット（年齢層）を絞った戦略的な取組みを行う。
 - (4) 広報の効果についてアンケートその他の手法により把握し、その結果を踏まえ進め方を見直す。
 - (5) 具体的な内容については、本推進会議でさらに検討する。
- 2 体験型イベントの推進
 - (1) 「70万人の海体験」の推進

本推進会議メンバー（以下「メンバー」という。）は、主に青少年を対象とした体験型イベントの推進を図る。平成 20 年度は、全国で 70 万人（実施済みのものも含む）を目指すプラン「70万人の海体験」を推進する。
 - (2) イベントの内容

具体的なイベントとしては以下のようなものが考えられるが、創意工夫により、さらに多様なメニューを企画・実施する。

 - 帆船等練習船の体験乗船
 - 造船所や船の見学
 - 海洋レクリエーション体験その他海に親しむイベント
 - 海事産業に関するシンポジウム、講演会、展示会等
 - 船員によるトークなど海事産業で働く人に触れるイベント
 - 海や船に関する絵画、写真等のコンクール
 - (3) イベントの実施期間

「海の日」・「海の月間」及び 8 月を重点期間とするが、できる限り年間を通じイベントを実施する。
 - (4) 関係者間の連携

以下のとおり、関係者間の連携によるイベントを拡充し、広報・人材確保に効果を挙げる。

 - メンバー間相互の連携イベントの拡充
 - 海事関係教育機関と海事産業との連携イベントの拡充
 - 学校と海事産業との連携による体験学習の拡充

特に、地方運輸局等は、地方レベルでのイベント実施に関する海事産業関係者、教育委員会等関係者間の調整を行う。中国・四国・九州の各地方では、本年 2 月に

地方レベルでの推進組織が設置されたことから、これらを有効に活用し関係者間の連携・調整を図る。

3 「海の仕事.com」の充実・活用

(1) 「海の仕事.com」本体の充実

「海の仕事.com」は、青少年に対し海事産業で働く人の仕事の内容について、写真やイラストを多用し、分かりやすい表現で伝えることを目的としている。このような目的を踏まえ、7月中に、さらに見栄えのよい写真の掲載、平易な記述の工夫、コンテンツの一部追加など、サイト本体の内容の一層の改善を図る。

(2) リンク先コンテンツの新設・拡充

メンバーのウェブサイトにおいて、海事産業で働く人のビジュアルなイメージを提供するコンテンツを新設・拡充し、「海の仕事.com」にリンクさせる。

(3) 「海の仕事.com」の活用促進

あらゆる機会をとらえ、教育関係者に対し、学校教育での「海の仕事.com」の活用を働きかける。また、体験型イベントの実施に際しても、学習素材として最大限の活用を図る。

(4) 連携拡大による普及促進

メンバー以外の海事・海洋関係団体や職業教育に関するサイト等とも連携を拡大し、ウェブサイトの相互リンクその他PR面の協力により「海の仕事.com」の普及促進を図る。

(5) 「新着情報」機能の導入

メンバーのウェブサイトにおけるコンテンツの新設やイベント情報等をPRし、リピーターを増やせるよう、7月を目処に「新着情報」機能を導入する。

(6) アンケートの実施等

機会をとらえ中高生や教育関係者へのアンケート等を行い、得られた意見を踏まえ、より分かりやすく活用しやすいサイトにしていく。

(7) アクセス数の目標

年末までの10万アクセス達成を目指し、上記の施策その他サイトの充実・活用策を推進する。

4 教育関係者との連携

(1) 地域の教育関係者との連携

地域レベルであらゆる機会をとらえ、海事産業関係者、地方運輸局等が教育関係者への働きかけを行い、両者が連携して学校教育における海や海事産業に関する体験学習の機会を増やす。

(2) 文部科学省との連携

「総合的な学習の時間」における体験学習の拡大や学習指導要領における海や海事産業の位置づけの強化について、当面、文部科学省と意見交換を進める。

(3) 教科書における海事産業の位置づけ

教科書における海事産業への位置づけについては、教科書出版会社への接触等も

含め、進め方についてさらに検討する。

5 「海の日」関連事業の充実

国と関係者が連携し、以下の事業に取り組む。

(1) 「海の日」記念行事の実施

国土交通省と関係省庁が共同で、東京で第1回「海の日」記念行事を実施（海洋立国推進功労者表彰の授与式、シンポジウム等）。

(2) 「海フェスタ」の行事の充実

岩手県大船渡市を中心に開催される「海フェスタいわて」については、国も積極的に参画し、行事の充実を図る。

(3) 「海の日」関連の地方プロジェクトの充実

全国各地で地方運輸局と民間が連携し、体験型イベント等を展開する。

(4) 「海のまちづくり」の推進

海事産業が集積する地域における「海のまちづくり」の中で、海事産業の人材確保・育成に取り組む。

(5) 海洋立国推進功労者表彰の実施

国土交通省と関係省庁が共同で、第1回海洋立国推進功労者表彰を実施。

同表彰の受賞者に「海の日」の関連イベント等に参画していただき、海や海事産業に関する興味を喚起するようなPRを推進する。

今後、海運、造船などの海事産業や海洋レクリエーションの分野から受賞者が出るよう、候補者の発掘に取り組む。

6 推進体制の確保

官民双方のメンバーは、その地方組織、会員企業等に対し、この行動計画の内容について周知を図るとともに、計画推進への協力を要請する。